

海外生活 レポート 39



大学の作業療法学科の学生らと一緒に(本人:下段右)

伊東 加絵さん



ドミニカ共和国、サントドミンゴ在住、川崎市出身

オラ(Hola)!! 今回はわたしの住むカリブ海の島のひとつ、ドミニカ共和国を紹介したいと思います。

美しいカリブ海に浮かぶ島

ドミニカ共和国はハイチと国境を持ち、エスパニョーラ島の東側に位置します。面積はだいたい日本の九州と四国の半分くらいを足した大きさと言われていいます。カリブ海に囲まれているため、ご想像の通り、美しい海のあるリゾート地域があります。沢山の有名な野球選手も活躍しているので、野球の国としてドミニカ共和国の名前を聞いたことがある方も沢山いらっしゃるのではないのでしょうか。公用語はスペイン語です。



カリブ海の青い海と青い空

カリブ海の島、 ドミニカ共和国に暮らす



野球は国民的なスポーツ

INFORMATION



ドミニカ共和国

面積 48,442km² 首都 サントドミンゴ
人口 約1,076万人 公用語 スペイン語

日本の車やアニメも人気

私はドミニカ共和国の大学で、作業療法学科の教員として働いています。私の住む首都サントドミンゴは、現在、高いビルが立ち並ぶようになり、出勤や移動する車で日々ごった返しています。一般市民の購入する車は、日本や韓国の中古車になり、「日本車は壊れない、日本の技術は素晴らしい!」とよく褒められます。そんなこともあり、日本に憧れを抱く若者は多く、首都には3校、ドミニカ国内では計4校の日本語を学べるスクールがあり、ドミニカ人で日本語を流暢に話す先生たちが日本語を教えています。

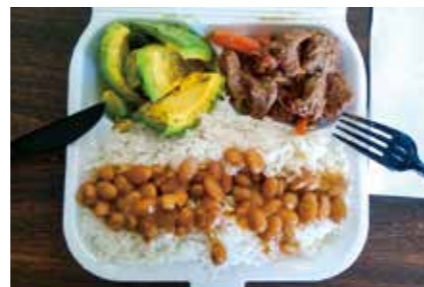
日本のドラマやアニメもとても人気があります。私の同僚は「キャンディ・キャン



発展してきたサントドミンゴ

ディ”や”アルプスの少女ハイジ”のテーマソングをスペイン語で歌ってくれます。

いたるところに フルーツがたくさん!



豆と肉のお弁当”バンデーラ”

基本的な食べ物は、”バンデーラ(国旗:国旗と同じように常に変わらないスタイルという意味)”と呼ばれ、豆を煮て塩で味付けしたものを白米(油と塩で炊いたもの)の上に加え、鶏肉を煮たものと食べるのが一般的です。あとは食用バナナ(皮が緑色)が一般的です。最初は抵抗がありましたが、今ではふと食べたくなる食べ物に変わりました。また、マンゴーなどの、日本では目にすることのない果物が沢山あります。マンゴーの季節になると、そこら中にマンゴーを見ることができ、「持っていきな!」とマンゴーをもぎ取ってくれるなんて想像できますか!? 年間を通してほぼ毎日30度前後の気温なので、出荷されてくる果物によって季節の変化を感じる日々です。



たくさんの果物がどこでも手に入ります

ラテンの音楽と 明るくフレンドリーな人々

ドミニカ人はとても明るくフレンドリーで、知らない人でもすぐに話しかけて友達になれる国民性があります。メレンゲやパチャータといったラテンの音楽が日常にあり、音楽がかかれば人が集まり、知らない人同士でも踊り、明るく楽しく過ごしているのをよく見かけます。

日本からはアメリカで乗り継いで、最短で20時間で来られるようになりました。ぜひ、ドミニカ共和国まで美しいカリブ海を楽しみにパカンスに来てみてください!

外国人インタビュー

22

川崎ブレイブサンダース マテイアス・カルファニ選手



ウルグアイ出身



マテイアス・カルファニ選手

川崎市に本拠地を置くプロバスケットボールクラブ「川崎ブレイブサンダース」。今回は、2019年の8月に来日し、クラブの一員となったマテイアス・カルファニ選手は、16歳からウルグアイのプロチームで活躍し、ウルグアイ代表にも名を連ね、過去3回南アメリカ選手権で銅メダルを獲得しています。

バスケットボールを始めたきっかけは?

子どもの頃はサッカーやバレーボールなど色々なスポーツをしていましたが、家族はバスケットボールをしていました。私はその頃から背が高かったので13歳からバスケットボールをするようになりました。本格的に始めたのは14歳で、モンテビデオ(※1)のクラブに入ってからです。優れたトレーナーに恵まれ、周りの人がチャンスをくれたので16歳からプロになりました。



試合の様子 ©KAWASAKI BRAVE THUNDERS

日本でプレーしようと思ったきっかけは?

アルゼンチン出身で、現日本代表チームのフリオ・ラマスヘッドコーチやアシスタントコーチを知っていて、彼らから「日本は良いところで、バスケットボールリーグ(B.LEAGUE)が発展している」と聞いていたので、日本に行くことは自分のキャリアでチャレンジになるし、人間としての成長にもつながる良い機会だと思ったからです。今年の8月に日本に来ました。日本の夏はすごく暑かったけれど、私は寒いより暑い方がいいです。(笑)



試合の様子 ©KAWASAKI BRAVE THUNDERS

川崎に来た経緯は? 川崎の印象や生活について

川崎のクラブからオファーがあったこと、ラマスヘッドコーチから川崎は歴史のあるレベルが高いクラブだと聞いていたこと、クラブと話した時に優勝を目指している強い気持ちを感じたこと、昨年の試合の模様を見て良い選手が揃っていると思ったこと。これらの点から川崎ブレイブサンダースでプレーすることを決めました。

川崎ではバスケットに関しても生活に関しても、分からないことは周りの人が教えてくれます。例えば、駅でどの電車に乗れば良いかわからない時、近くの人に聞く親切に教えてくれるのですごく助かります。今ではすっかり川崎になじんでいます。また、とても街が安全で家族と共に安心して暮らすことができます。

練習の中で思うこと、 今後の目標は

練習施設はとても充実しています。チームメートとのコミュニケーションは英語です。私は今までずっとスペイン語を話していたので、英語をもっと上達させる必要がありますが、英語をサポートしてくれる人もいますし、バスケット用語や動作によって通じる部分もあります。チームスポーツはお互いにコミュニケーションを積極的に取るように努力することで絆が強まり、チームワークがより良くなっていくと思っています。目標は勿論「優勝」です。

プロバスケットボール・ プレイヤーを目指す子どもたちへ メッセージをお願いします。

大切なのは、夢を持つこと。その夢のために努力すること。その夢をあきらめずチャレンジし続けることです。

身長が2メートル4センチのとても快活なアスリートは、「クラブも川崎の街も大変気に入っている、目標は勿論優勝」と力強く語ってくれました。頼もしいウルグアイのプレイヤーから元気をもらって帰途につきました。

(取材・文:編集ボランティア 小島俊彦)
(※1)ウルグアイの首都。人口約135万人

INFORMATION



ウルグアイ
東方共和国
面積 176,000km²
人口 約345万人
首都 モンテビデオ
公用語 スペイン語